

「服活」

世界へ・未来へ つなげようエシカル消費 ～那賀から広がるエシカルループファッション～

徳島県立那賀高等学校



I. テーマ

「服のチカラプロジェクト」に参加したことをきっかけとし、地域と連携して、身近にある服をリサイクルし、復活させる活動「服活」を通して、限られた資源を大切にしようという意識を育てる。



II. 目的

『服活』をとおして、地球・環境に優しい生活 = 「エシカル消費」を那賀高校エシカルクラブから地域・世界へ発信し、そして未来へと持続可能な社会の実現に向けてつなげていく。



Ⅲ.実践者

本校エシカルクラブのメンバーを中心に
として、地域内外のイベントに参加した。



Ⅳ.期間 Ⅴ.場所

今年で5年目の活動となる。

平成29年の夏、校内で初めての「服活」を行った。
展示した服はわずか60着程度。

利用した生徒から、是非この活動を続けて欲しい
という声を聞くことができた。



文化祭や「あなんまちマルシェ」「NAKAGAWA.FAM」「活竹祭」
などのイベントに参加し、知名度を上げていく。



VI.内容

①不要となった衣服を回収し、検品・分別・展示を行い、イベントで無料譲渡する活動『服活』

②縫製会社から残反を提供していただき、エコバッグや防災リュックを製作し、イベントや卒業時のプレゼントとして配布

③新型コロナウイルス感染対策として、地元で栽培されている晩茶で染めたガーゼマスクを近隣の高齢者施設に提供。

④回収した衣服の一部は、「古着deワクチン」を利用し、海外に送り、現地の雇用促進やポリオワクチン購入などの国際支援活動に貢献。



Ⅶ.結果

昨年度までで、4500着を譲渡した。

今年度は、現段階で2000着譲渡している。

利用者の中には、衣服の提供を知り合いに声掛けをしていただける方や、回収協力店として名乗り出てくれる方などが現れ、『服活』をとおして、エシカル消費の輪が広がっている。

また、エシカル消費推進活動を通して意識が変化し、他者をまきこみ地域社会や環境に配慮できる存在となることに喜びを感じている。

コロナ禍で、経済的な落ち込みに伴い、生活が苦しくなっている家庭があるなかで、「フードバンク」ならぬ「衣類バンク」として『服活』がもっと広がってほしいよう、今後も地域に貢献できる活動を充実させていきたい。

